

【65】鎮火に9時間かかったマンション火災

昨年の11月の終り頃、東京は後楽園のドーム球場近くの住宅街で、マンション火災がありました。よくある話なのですが、焼けたのが6階建てマンションの最上階の国會議員の自宅で、不幸にも2人の御家族が亡くなつたということで、ちょっとしたニュースになりました。

私が気になったのは、消防車が20台以上も出動したのに消火に手間取り、鎮火したのが火事が発生して9時間後のことだったという点です。

TVや新聞ではよくわからないので、後日現場を訪れてみてすぐにわかりました。

マンションの周囲の道路はせいぜい幅4～5mの狭い一方通行の道路で、いくら消防車が集まってきたても駐停車するのが大変で、ましてや大型で車体の長いハシゴ車などはカーブを曲がり切れず火災現場に近づけないのでした。

そのため高所からの放水が出来ず、手作業のような消火活動で鎮火までに時間がかかったようです。

問題は、簡単明瞭です。まともな道路網の無い過密住宅街の奥まった処に、何故階数のあるマンションの建築が認められたのでしょうか。

このマンションは高級感のある外観で、そう古い建築ではありません。

しかしその場所は狭い表通りから直角に曲がった狭い行き止まりの道の奥にあるのです。ハシゴ車どころか普通の消防車でも近づくのに難儀しそうです。

私が現場に行ったとき、遠くから建物が見えているのに接近路がわからず、まわりをグルグル歩きましたくらいたいです。

建築基準法では、敷地の前面の道路巾が4m以上あれば建築が認められるが（接道義務）、その地域全体の道路が巾4mくらいの狭い道の迷路になっているようなことまで気にかけていないのでしょうか。建築の問題というより都市計画の問題です。

そういう目で、東京の住宅街を見まわすと、消防車が入りにくい狭い道路に面して、2階建の木造住宅に混じって、5～6階建てのマンションが数多く建っているのに改めて気づかされます。

渋谷の繁華街の一歩裏側の、ハシゴ車どころか農村部の消防団の小型消防車しか入れないような細道に面して、十数階建てのビルがあるのに驚きました。あら探しの目で見ると、表通り側のビルと裏同志が非常階段のような空中の渡り廊下で一応つながっているのです。建築確認の際、表側のビルと一体の建物と見做されたのでしょうか、よくわかりません。

1995年の阪神淡路大震災の時の神戸ではありませんが、東京の住宅街や街裏のビル街も消火活動が困難で、大地震時の火災には弱いということを心配します。